



城東

●城東地区●
1930 世帯
男 1837 人
女 1959 人
合計 3796 人
H 27.3.1 現在

おかあさん ガスは止まるよ 震度5で

町内公民館長研修会に参加して



城東公民館町内公民館長会では、昨年の視察研修を1泊2日の行程で「おぢや震災ミュージアムそなえ館」を訪問し、市民が語る震災被害の体験談と教訓を学ぶ事を主旨に、町内公民館長と関係者の12名で勉強してきました。前回の城東版にその詳細が載っていますので詳しくは省略させていただきます。

中越地震から、早いもので10年が過ぎましたが、長野県にも多くの自然災害が予測されます。

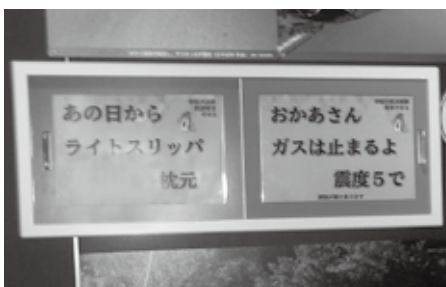
昨年は

- 2月14日と1週間後の21日に大雪75cmを記録、国道が大渋滞追突事故多発
- 7月9日台風8号による、集中豪雨、土石流災害、南木曾町を襲う、死者1名
- 9月27日御嶽山噴火、11時52分、死者57名行方不明者6名、雲仙普賢岳以来で明治以後最悪の火山災害
- 11月22日(土) 22時8分頃、震度6弱の長野県神城断層地震が発生、死者・不明者0、重軽傷者46名

これは、糸魚川・静岡構造線上で発生した地震であり、松本を中心とした、糸静構造線中部地区では予想される地震の発生確率が最大震度7が、30年以内に14パーセントと発表されてからすでに19年も過ぎており、三陸沖地震によりさらに可能性が高くなった模様です。松本では平成23年に起きた震度5強が最大と言われていますが、震度7の地震が起きたら大災害になります。地震の起きやすい場所に住んでいます。起きない事を祈るばかりです。自然災害は避けられないが、「そなえ」ることにより被害を最少にし



震災直後の室内の様子を再現



掲示されている標語

3・3・3の法則とは・・・

大規模災害の発生から避難生活に至るまでの過程で、どのような行動をとるべきかを時系列に示したもの

- 30分**・・・自ら、家族の身の安全の確保 救助・救出の準備
- 3時間**・・・要援護者の救助・救出
- 3日**・・・全員の安否確認

たいものです。大規模災害に3・3・3の法則と言うものがあります。

震災後は自分の身を守る行動を取りその後落ち着いたら、安全なところへ避難するのが、(現場再現図)このように足の踏み場も無い状況であり、無造作に動けば二

次災害になる様相です。こんな状況から後に出来た標語が「あの日からライト・スリッパ枕元」であり、「おかあさんガスは止まるよ震度5で」です。スリッパはただ置いておくだけでなく揺れ、振動でどこかに飛んでいかない様に固定するように指導されています。昔は火の始末を第一に指導されていましたが、このような状態では履物を履かなければ火元へも行かれない、行きついても慌てているために元栓を上手に締められずに火傷を負うという二次災害が発生したために、ガス器具も改良され、ガスが流れているときは震度5弱の揺れでガスが止まるようになっていた事を表した標語です。

最後に 防災グッズ備えチェックシート (曙町町内公民館長 佐藤)

トというものが3種類あります。

- 常時携帯品リスト
最小限必要なもの、病気があれば薬・お薬手帳等個人により変わります
- 非常時持出品リスト
持ち出し品の最低限の備えをザックのような両手が見えるようなものに入れて持ち出します
- 非常時備蓄品リスト
最低3日分位の水・食糧・日用品をケースにまとめ、震災でつぶされず水害で流されないような位置に保管しておきます。これらの3種類のチェックリストを活用し、震災により発生した複合災害などいろいろな突然の災害に日頃から「そなえ」る事に力を入れることが必要だと感じました。

自助・共助・公助で減災

災害を防ぐことはできませんが、被害を減らすことはできます。

自助・・・自分の安全は自分で守る・・・住宅の耐震化、家具の固定、備蓄など

共助・・・地域で助け合う・・・自主防災活動

公助・・・警察・消防・市町村等の救助、支援活動

松本市危機管理課

激変する町の風景


【和泉町一丁目】

わが町和泉町一丁目は、旭町小学校の南に位置し、国道143号線を中心にして、4本の枝道に沿って広がる小じんまりした町です。(地図の点線で囲まれた地域)

現在の町会員数は約60世帯で、他にアパート8棟、駐車場7ヶ所があります。

この町の風景が、ここ数年で大きな変化をしていて、訪れる方に「久しぶりに来ましたが、あまりに変わってしまった感じがびっくりしました」と言われるほどです。そこで、町の風景の変化を筆者なりにまとめてみました。

【残念な変化】

住民の高齢化が進み、昨年だけで、亡くなったたり介護施設に移動したりして、4軒の空家が発生しました。この空家はすべて取り壊され、駐車場として利用されている1ヶ所を除いて空地となっていました。以前からの空地を合わせると、町内の空地は7ヶ所に上り、地図にで表示している様な状況です。



町の様子

家の両側が空地や駐車場となつてしまい、完全に歯抜け状態となつている場所が2ヶ所あります。その内1ヶ所は建物が奥で手前が駐車場となつていて、空地が連続している様に見えます。ちなみに、空家が5軒ありますが、町内全体の10%に満たない少ない数なので、特に問題とはなっていない。

【嬉しい変化】

5年位前から宅地造成が行われ、地図のA~Eの5ヶ所に計14軒の家が新築されました。新築された家には町外から



町の様子

多くの方が移り住んで来られました。中には、県外から移つて来られた一家もいらつしやいます。

町会の対応としましては、Aの6軒への進入路が私道で

あり、行き止まりになっているため、進入禁止の看板を○地点に、出入口の見通しが悪いため、カーブミラーを△地点に、それぞれ松本市の交通安全課に依頼して設置してもらいました。

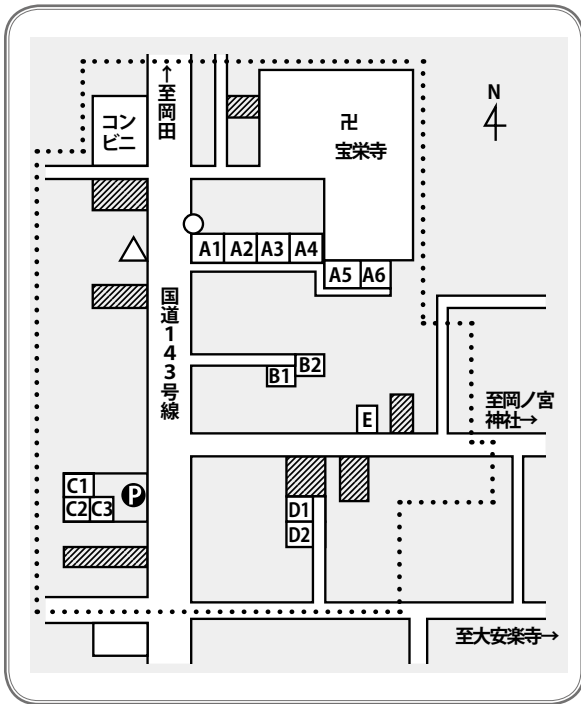
【今後の課題】

核家族化、少子化、高齢化が進んで近い将来町の人口が減少し、空家、空地がさらに増えると思われる。

この課題は、町会と行政が一体となつて対応していくしかないと考えます。

(和泉町一丁目

町内公民館長 小原)



【挨拶運動への参加を】

「旭町小・学校応援団」運営委員会(委員長 麻田晃氏)。「旭町中・学校応援団」運営委員会(委員長 中原信一氏)では、平成27年度事業として、城東・本郷・安原地区合同で挨拶運動を展開することとなりました。

運営委員と地域のボランティアの方々で子どもたちの通学時に、東西の校門の前に立ち、子どもたちに「おはようございます。」と明るく声をかける運動です。地域の方が声をかけることによつて子どもたちは「こんなに見守つてくれているんだな。」と安心感もち、運動に学業にと励んでくれるものと期待しています。また、顔見知りになり、さらに、悩みなどの相談をもしてくれることによつて、忌まわしい犯罪を防止できる可能性にもつながります。

合同の挨拶運動は年に4回を予定しております。時間は、朝7時15分集合、8時頃までとなります。

第一回4月6日(月)

詳しくは城東公民館までお問い合わせください。

(TEL 34-0191)